



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

2020年12月6日 待降節第二主日B年

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：イザヤ書 40章 1－5、9－11節

第二朗読：ペトロの第二の手紙 3章 8－14節

福音朗読：マルコによる福音書 1章 1－8節

今日のテーマ：主の到来の準備

三つの朗読から

第一朗読の背景には、バビロンを目指して侵攻してくるペルシャの王さまキュロスがいます。第二イザヤはキュロスの台頭に、いち早く「時のしるしを」を読みとりました。何かが始まっているのを読みとったのです。今、歴史が動き出している、それこそ神の新しい創造と救いなのだという「呼びかける声」を第二イザヤは聞いたのです。

第二朗読から読みとりたいのは、主のもとでの時は人間の計る時間とは違うという事実です（8節参照）。だからこそ、わたしたちは待ち続けるのです。

福音朗読には「主の道を整える」（3節参照）とあります。待ちわびるわたしたちにとってできることはただ一つ。「整える」ことです。

説教

『マルコによる福音書』の冒頭は、洗礼者ヨハネの荒れ野での活動が描かれます。それは旧約の預言者たちの成就なのです。洗礼者ヨハネは救い主の到来を準備する先駆け、メッセンジャーでした。

少し言葉の説明をしましょう。「預言者イザヤの書にこう書いてある」（2－3節）は、実際のところ、3節のみが「イザヤ書」40章3節からの引用で、2節は「マラキ書」3章1節からの引用となります。

「悔い改めの洗礼」（4節）は、「生きる姿勢の転換」と理解したらよいでしょう。しかし、それは人間の努力ではどうしてできないもので、神の業を知ることを通じて、実現します。しかも、「罪の赦しを得させるため」なされるこの洗礼は、イエスの十字架を前提としています。なぜなら罪のゆるしはイエスの十字架を通してなされるからです。ですからこれは「準備の洗礼」と考えて差し支えないでしょう。

「らくだの毛衣」（6節）は、預言者の特徴的な服装（ゼカ13章4節、王下1章8節参照）で、粗食は救いの時の準備です。

マルコが引用したイザヤ書ですが、40章から、いわゆる第二イザヤが始まります（時代は紀元前6

世紀頃)。テーマは「慰め^{なぐさ}のメッセージ」とまとめることができるでしょう。本朗読箇所^{かしよ}は、語られる人^{にん}称の舞台設定が少し難^{むづか}しい箇所となっています。

1節の「慰めよ^{なぐさ}」は、誰^{だれ}が、誰に、誰を慰めよと命じているのかを考えると、「あなたたちの神」が、「あなたたちに」、「わたしの民を」、「[あなたがたが] 慰めよ」と命じています。そして、「神は言われる」と告げている人は、ユダヤ教の伝統的な理解では預言者たちとなります。

「慰める」は『創世記』6章6節「[主は] 地上に人を造ったことを後悔^{つぐ}し、心を痛められた」の「後悔する」と同じ言葉だそうです。もともとの意味は「深く息をつく」というニュアンスがあったそうです。神は全能な方ですから、人間が神から離れたのを「深く息をついて」後悔したわけではありません。「後の祭り^{あとのまつり}」となる後悔ではなく、新しい方策^{ほうさく}、関わり^{かか}りを模索^{もさく}するための後悔なのでしょう。もう一度「深く息をついて」、神はご自分の民である人間を慰め始めるのです。それは新しい道、新しい生き方を示すためです。

そして、その時の到来^{とうらい}に向けペトロが第二の手紙で呼びかけています。偽りの預言者^{いつわ}、異端的な教えに直面するキリスト者に、正しく伝統的な信仰^{いんぎ}に留まるようにと。「愛する人たち」(8節)は、3-4節に登場する「あざける者たち」と対極^{たいぎょく}にある人たちです。人間がもつ時間の尺度^{しやくど}と神の時間の尺度は異なるのですから、人間の尺度で神を批判することはできません。

ひとこと

各朗読の三つのみことばに注意しましょう。

第一朗読：「慰めよ」(1節)

元々の意味は「深く息をつく」というものです。神さまがなさる慰めというのは、神さまご自身がこれまでの人間との関わりをふり返り、後悔することから始まります。そして、「深く息をついて」新たな救いの道を人間に示してくださるのです。

第二朗読：「待ち望んでいるのです」(13節)

人の時間(クロノス)の中で生きるわたしたちにとって、待ち望むことはとても忍耐^{にんたい}が求められます。しかし、神さまもまた、ご自分の時間(カイロス)の中ですべての人が救われるようにと忍耐なさりながら、キリストの再臨^{さいりん}の時を見定めようとなさっているのです。神さまもまた待ち望んでおられるのではないのでしょうか。

福音朗読：「悔い改めの洗礼」(4節)

神さまの方へと向きを変えていくのが「悔い改め」です。何か善いこと、正しいことをするのが「悔い改め」ではありません。しかし、わたしたちが決定的に「悔い改め」するためには、神のわざが必要です。わたしたちの人生を決定的に変えてくださる神のわざです。イエスさまの到来とは神のわざであり、わたしたちの人生を変える大きなきっかけとなります。